

## 墓地は歴史の宝庫

「鹿児島近代」教育研究センター 客員研究員 友野 春久

私の先祖は代々鹿児島城下に住み、曾祖父は城下四番組に属し、文久3年（1863年）薩英戦争、戊辰戦争、西南戦争にも従軍しており、明治10年西南戦争から生還しました。これらの戦争の検証をしたいと考え、ここ30年間、薩摩半島を中心に墓地の墓碑銘にみえる戦争戦没者のデータを採取し、また史料調査を行い再考してきました。薩英戦争についてのデータは少ないですが、墓碑銘にみえる慶應4年（明治元年）から明治2年の18歳から30歳の被葬者の中には戊辰戦争戦没者がみえ、また明治10年代の16歳から50歳の被葬者にも多くの西南戦争戦没者がみえるので、データベースの作成を行ってきました。

鹿児島市出身の私は前記調査と共に、先

祖が住んでいた旧鹿児島城下内の墓地掃苔も同時に行い、主要墓地墓碑銘データベースも作成しています。冷水町興国寺墓地をはじめ市内大型墓地には薩摩の先人が多くみえ、藩主家・家老家・家臣家・宗教者・商町人家のデータなどを採取しています。

墓地は一次史料を得るには最適の地であり、墓碑銘に刻してある人物は「公開された戸籍（除籍）謄本」であると考えています。ただ、このところ「墓じまい」する家も増えてきており墓地には空き地が多くみられます。これは各家の事情によりますので仕方のない事ですが、次第に減っていく墓情報つまり歴史情報の滅失を憂えている一人です。